

当別文芸の会だよりNO.96

H30・8/17 (連絡先・河地良一 TEL090-5076-2550)

7月の読書会は宮下奈都の「羊と鋼の森」でした

今年の夏は全国の多くの地域で、集中豪雨の被害と酷暑で、日常生活の場を奪われる人たちが続出しています。北海道も6月から7月にかけて天候不順が続き、豪雨に見舞われた地域もあり、7月の後半になってようやく夏らしい天候といったところでしょうか。

そんな夏のきざしが見え始めた7月14日(土)の読書会には、会員12名の参加により、平成28年(2016)の本屋大賞を受賞した宮下奈都の「羊と鋼の森」を取り上げ、後藤まゆみさんの司会進行により読后感想交流を行いました。

宮下奈都は昭和42年(1967)福井県の生まれで、日常生活を大事にする二児の母ですが、夫とともに子供たちを大自然のなかで育てるため、十勝岳の麓・トムラウシ(新得町の山奥にへき地の小学校がある地域)に短期間、移住します。そうした体験の中で、ピアノの調律士をめざす青年の心の成長を丹念に追ったのがこの作品です。

会員のみなさんの感想は、「作品の盛り上がりがありすぎて、読み進むのに苦労した」。また一方では「人間の素直さ、やさしさがこの作品の特徴だ」といった肯定的な感想も聞かれました。

ともあれ、最近はマスコミなどでもショッキングな出来事だけが取り上げられる傾向にあり、こうした地道な生き方にも目を向けていくことが大切なのは、と思うのですがいかがでしょうか。

「当別文芸」(第8号)が発刊されました

今号は、会員12名、町民と当別ゆかりの人たち14名の計26名の作品が掲載されており、大作も多く、212ページになりました(頒布700円)。

まだ残部あります。会員のみなさんのPR、よろしくお願いいたします。

今後の日程(後期の日程が変更になっています)

次回は10月27日(土)13:30 白樺コミセンです。

読書本は幕末の歴史物で、松本侑子の「島燃ゆ」―隠岐騒動―です。変更になった後期の日程と併せて、同封しました。よろしく、どうぞ。